

《研究ノート》

複合助詞「について」「に関して」 「に対して」の連体用法について

趙 海城

1. はじめに

複合助詞¹⁾「について」「に関して」「に対して」は日本語教育でよく取り上げられ、類義表現ゆえに、その使い分けは中上級日本語学習者でも悩まされることが多い。例(1)、例(2)は市川(1997)に取り上げられている学習者の誤用例である。

- (1) 学割というのは、学生*に対しての(➡に対する)割引のことである。
- (2) 朝食で取るべき栄養バランス*に関しての(➡に関する)問題点は食品メーカーにとって大事なことである。(市川 1997: 265、269)

従来の研究は「について」「に関して」「に対して」の連体用法を中心に行われてきた。「についての」、「に関しての」、「に関する」、「に対しての」、「に対する」のような連体用法についての考察は必ずしも十分とは言えない。一方、言語習得の面から考えると、学習が進むにつれて、日本語学習者はこれらの連体形式をよく目にし、文章で使うようになる。

そこで、本稿では「について」「に関して」「に対して」の連体用法「についての」「に関しての」「に関する」「に対しての」「に対する」の五形式を対象に、現代日本語のコーパスから抽出した例を基に、量的に分析し、この五形式の違いを考察する²⁾。「N1についてのN2」のように、この五つの形式は「N1 ～～ N2」の形で使われるが、本稿ではこの五つの形式について、ジャンル別による使用傾向、文体的特徴、後続名詞N2の特性の違いに焦点を絞って、考察していく。

2. 先行研究

「に関して」「について」「に対して」の連体用法についての研究には、砂川(1987)、森田・松木(1989)、佐藤(1989)、塚本(1991)、金(1990、1992)、真仁田(2005)、柏崎(2005、2007)、横田(2006、2007)、グループKANAME(2007)、杉本(2014)などがある。また、金(1992)、佐藤(2001)、山田(2002)、横田(2007)、真仁田(2007)、

杉本 (2014) が明示的にこの三形式 (あるいはその一部) の連体用法を扱っている。

まず、日本語教師のための文型文法参考書として位置づけられる森田・松木 (1989)、庵 (他) (2001) における記述を概観する。

森田・松木 (1989)

森田・松木 (1989 : 8-11) は、「対象・関連を示す」という項目で、本動詞としての意味をどれだけ維持しているかを念頭に置き、以下のように述べている。

「について」は、動詞「つく」の“本来の関係のなかった事物が他の事物に接触して離れない状態になる”という性格を引きついでいるため、対象との緊密度が強く、対象を指示するだけでなく、それを限定する意識がある。(中略)「について」には、もとの動詞「つく」の活用による関連形式がなく、それだけ「について」一語として固まっていることがわかる。このことは、言い換えれば、本動詞としての用法を離れて複合辞として格助詞的機能を担っていることを意味する。(中略)連体格「についての」が修飾する体言も「意見」「説明」「考え」「判断」「研究」などといった語が多く、物理的な作業等にはなじみにくいようである。

「に関して」は、動詞「に関する」のその字義通り“かかわりを持つ”程度なので、対象との関連性を明示するにとどまる。(中略)「に関して」の連体格として「に関する」があるということは「に関して」がもとになる動詞「に関する」の活用性を失っていないことを意味し、その点で本動詞としての用法にやや近い位置にあると言える。

「に対して」は、動作や感情が向けられる対象を指示する機能を果たす。動詞「対する」の“他のものに向かう、応じる”意を引きつぐため、目標を示すといった方向性や、相対する人物・事物への反作用などが示唆されることが多い。

庵 (他) (2001)

庵 (他) (2001 : 16-18) では、「に関して」と「について」は述語が表す動作や状態が関係する対象を表す形式であるとしている。「について」は「考える、話す、語る、述べる、聞く、書く、調べる」など、言語による情報を扱う動詞が述語に来る。形容詞については、「詳しい」「無知だ」と一緒に用いられる。

「に関して」は多くの場合、「について」と置き換えられるが、「考える」などの思考活動動詞の場合、「に関して」はやや不自然である。「に関して」は「について」よりやや書きことば的である。「について」と「に関して」には、「は」をつけて、主題化された用法もある。「について」と「に関して」は「に対して」と異なりヲ格名詞句をとる言語による情報を扱う動詞とともに使うことができる。「について」には割合を表す用法もある。

「について」「に関して」「に対して」の連体用法を主に扱った先行研究は少ない。そのうち、金 (1992) は「についての」「に関する」「に対する」の異同点を考察している

が、データ収集の偏りもあり、三者の異同点について十分に指摘しているとは言い難い、また金 (1992) では「に関しての」「に対しての」を扱っていない。

山田 (2002:42) は、「に関しての」と「に関する」、「に対しての」「に対する」「に対し」のような「2つ以上の連体形を持つ場合、微細な違いを除き、ほぼ用法に差はない」と結論づけている³⁾。また、横田 (2007) では、「に対して」の連用用法との対応関係を中心に、連体用法の「に対しての」「に対する」を分析し、「N1に対する N2」と「N1に対しての N2」について、「両者に際立った意味の差はないと考えられるが、文体上、『N1への N2』『N1に対しての N2』『N1に対する N2』と書き言葉度が増していくと言える」と指摘し、両者は文体的な違いにとどまるとまとめている。

しかし、第1章の例 (1)、例 (2) のように、日本語母語話者の「に対しての」を「に対する」、「に関しての」を「に関する」に置き換えたほうが良いという判断からペアになる両者に違いがあることがわかる。また、4.1節で触れるように、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」で検索した結果、ペアにある両者の使用例数に大きな開きが見られるという使用実態からも、両者には文体差を超えた違いがあるのではないかと推察される⁴⁾。そこで、本稿ではこの五つの形式の異同点について見ていく。

3. 調査資料と調査概要

本稿は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(以下 BCCWJ と略する) をデータ収集対象として用いた。BCCWJ は短単位語数が約1億490万語で、長単位語数だと約8360万語で、本稿ではそれらすべてを検索対象とした。

検索ツール「中納言」(2.2.2.2) を用いて、「長単位検索」を行った。キーを語彙素でそれぞれ「に対する」「に対して+の」「に関する」「に関して+の」「について+の」を指定し、前文脈は直前に現れる名詞、後文脈は3長単位以内の名詞を抽出した⁵⁾⁶⁾。後文脈で3長単位以内の名詞が二つある場合、用例の重複を削除した⁷⁾。上記作業で得た用例を、まず、ジャンル別の使用傾向を見た。つぎに、それぞれランダムに500例ずつ抽出し、N2の異同点を手掛かりに分析した。なお、「に関しての」は232例しかないで、それらを全部分析対象とした。

4. 分析と考察

4章では、まず4.1節で分析対象の使用傾向を示した上で、4.2節で後接名詞 N2 の意味特徴を手掛かりに、五形式の相違点を考察する。

4.1 使用傾向

表1には、本研究の分析対象となる五つの形式のサブコーパス別の粗頻度を示している。連体形「に関する」「に対する」が多く使われるのに対し、「に対しての」「に関しての」のテノ形の用例数が少ないのが対照的である。具体的に見ると、「に対しての」と「に対する」の割合は約1対48で、「に関しての」と「に関する」の割合は約1

対110である。

表1の□で囲まれているのは出現実数が1000例以上のものである。「に関する」「に対する」「についての」は出版書籍、図書館書籍、国会会議録、白書に多く使われている。特にBCCWJにおける語数割合が低い国会会議録、白書に多く使われていることが分かる。「に関する」は法律、広報誌にも多く使われているのが特徴的である。

表1 サブコーパス別粗頻度（後続3長単位以内に共起名詞があるもの）

形式 サブコーパス	に対する	に対しての	に関する	に関しての	についての
雑誌	468	24	248	11	107
新聞	257	2	166	0	40
書籍	14781	234	10239	107	4732
ブログ	614	62	405	27	160
教科書	182	1	125	0	55
広報誌	558	9	1532	10	0
国会会議録	2429	76	2179	28	1286
知恵袋	462	107	361	40	413
白書	5030	13	7382	8	1097
法律	572	0	3038	0	543
総計	25353	528	25675	231	8433

表1でサブコーパス別粗頻度（出現実数）を示したが、サブコーパスのサイズの影響を排除するために、BCCWJのサブコーパス別100万語当りの頻度を表2に示す。

表2 サブコーパス別調整頻度（100万語当りの頻度（PMW））

サブコーパス			に対する	に対しての	に関する	に関しての	についての
	長単位語数	割合					
雑誌	3320944	4.00%	140.9	7.2	74.7	3.3	32.2
新聞	773395	0.90%	332.3	2.6	214.6	0.0	51.7
書籍	50966540	60.9%	589.1	9.3	408.0	4.3	188.6
ブログ	8209800	9.80%	74.8	7.6	49.3	3.3	19.5
韻文	202425	0.20%	14.8	0.0	0.0	4.9	9.9
教科書	746170	0.90%	243.9	1.3	167.5	0.0	73.7
広報誌	2308452	2.80%	241.7	3.9	663.6	4.3	0.0
国会会議録	4007842	4.80%	606.1	19.0	543.7	7.0	320.9
知恵袋	8534253	10.20%	54.1	12.5	42.3	4.7	48.4
白書	2970971	3.60%	1693.0	4.4	2484.7	2.7	369.2
法律	706313	0.80%	809.8	0.0	4301.2	0.0	768.8
平均			303.4	6.3	307.2	2.8	100.9

表2から、全体的な傾向としては、「に関する」「に対する」の出現頻度が高く、「についての」が中間で、「に対しての」「に関しての」の出現頻度が非常に低いことがわかる。サブコーパスにおける出現傾向をまとめると、表3になる。「に対しての」「に

関しての」の出現頻度が非常に低く、はっきりした傾向が見られないため、表3に示していない。

表3 サブコーパスにおける出現傾向

頻度	に対する	に関する	についての
高い	白書、法律、国会会議録、書籍、新聞	法律、白書、広報誌、国会会議録、書籍	法律、白書、国会会議録
低い	韻文、知恵袋、ブログ	韻文、知恵袋、ブログ、ベストセラー、雑誌	広報誌、韻文、ブログ、雑誌、知恵袋

「に対する」は白書、法律、国会会議録、書籍、新聞の順で、「に関する」は法律、白書、広報誌、国会会議録、書籍の順となっており、「についての」は法律、白書、国会会議録の順となっている。上記の傾向は、サブコーパスの特徴と関連していると考えられる。

「に関する」「に対する」「についての」は法律、白書、国会会議録のような硬い文体⁸⁾、公的な文章で使われやすい。法律、白書は公的な立場で条文、事実情報、報告を客観的に、簡潔明瞭に記述することが求められる。国会会議録は公的な場で行われた政治的な答弁を全文の上記録したものであり、その答弁は公的な場において聞き手を納得させるように客観的な述べ方が求められる。広報誌も公的な立場から市民等に事実や情報を客観的に伝えるもので、客観的な事実・事象の記述が可能な「に関する」と合う。一方、「についての」は「核心性、具体性、深く掘り下げ」といった意味的特徴を有し、事柄について深く掘り下げる意味用法と広報誌の広く一般的に伝える性質とがそぐわないため、広報誌に使用例が見られなかったのであろう。

「に対する」は白書で出現頻度が最も高いのは、白書の内容性質から見て、他との比較、何か問題に対処する内容が多いことによると思われる。佐藤(2001:79)は「に関して」は文体的な面では硬い文体や論理的な文に出やすいと指摘した上、「に関する」は後続名詞には「決まりや司法に関係がある名詞」が多く、文献や会議のタイトルによく使われると分析している。法律や白書に「に関する」がよく使われているのはその特徴を反映していると言えよう。

「に関する」「に対する」「についての」はブログ、知恵袋、韻文で出現頻度が低い。ブログ、知恵袋の特徴としては、インターネット上のテキストで、第三者の校閲を受けずに、自分の考え、質問及び答えを記すもので、どちらかという話し言葉に近い柔らかい表現がよく使われる文章である。両者の違いを相互作用性の有無という点でいうと、ブログは自らの考えを主観的に記した一方通行のテキストであるのに対し、知恵袋は質問者と回答者という参加者がいて、やや改まりを持ったやり取りを記すテキストである(前坊(2014:97))。また、韻文は散文詩とも呼ばれることがあるように、情緒的で自由な言語表現が好まれるテキストである。このような、私的、柔らかい表現、情緒的な表現が特徴となる文体では、「に関する」「に対する」「についての」は使われにくいようである。

BCCWJに格納されている図書館・書籍、出版・書籍、ベストセラーは書籍として日本十進分類法(NDC)による分類をされている。BCCWJにおいて、書籍(図書

館・書籍、出版・書籍、ベストセラー)は長単位語数で見ると61%を占める。書籍はNDC別に何か使用傾向が見られるのか、見られるなら、どのような使用傾向を示すのか。これを見るため、次に五形式の日本十進分類法(NDC)による分類ごとの出現傾向を100万語当たりの調整頻度(PMW)でグラフ化したものを図1に示す。

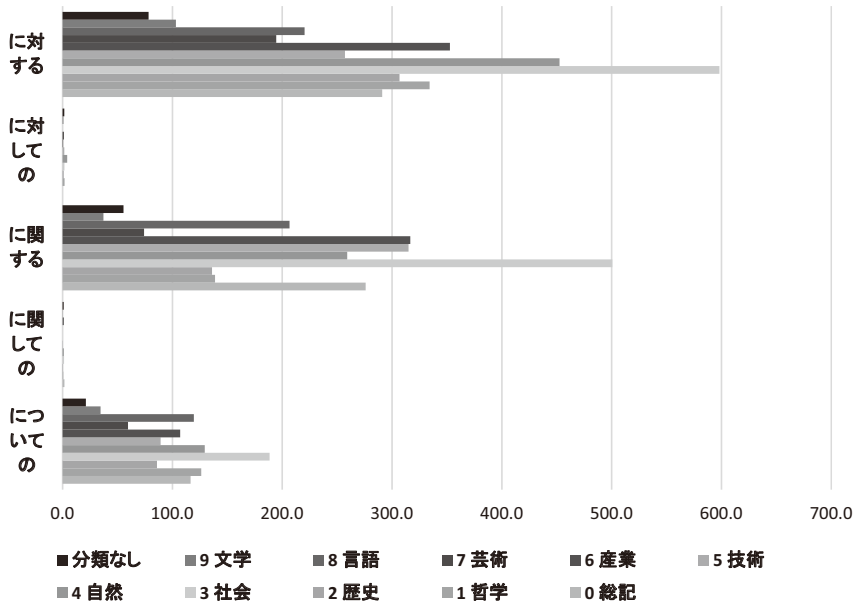


図1 書籍(図書館書籍、出版書籍、ベストセラー)の十進分類別調整頻度(PMW)

出現数の多さを降順で見ると、「に対する」の出現数は社会科学、自然科学、産業、哲学、総記の順となっており、「に関する」の出現数は社会科学、産業、技術工学、総記、自然科学の順になっている。「についての」の出現数は社会科学、自然科学、言語、哲学、総記の順となっている。以上の三者に対し、「に関しての」「に対しての」はいずれも頻度が低く(100万語当り1例前後)、これといった特徴が見られない。「に対する」「に関する」「についての」はいずれも社会科学に最もよく使われ、自然科学、産業、総記、哲学にもよく使われているが、三者とも文学分野にやや現れにくいことが分かる。「に関する」は技術工学分野に、「についての」は言語分野によく使われるのが特徴的である。

4.2 後続名詞の特徴

「についての」、「に関する」、「に関しての」、「に対する」、「に対しての」の後続名詞の特徴を見るため、各形式のランダムに抽出された500例の後接名詞N2を対象に、相互比較した。なお、3節で触れたように、「に関しての」は232例しかないので、それらを全部分析対象とした。以下4.2.1節-4.2.4節ではそれぞれ、「に関するN」と「に関してのN」、「に対するN」と「に対してのN」、「に関するN」と「についてのN」、「に

対する N」と「についての N」の後続名詞 N を比較し、それぞれの形式に接続する独自の後続名詞の特徴を分析していく。なお、紙幅の都合で、2例以上出現したものを取り上げる。

4.2.1 「に関する N」と「に関しての N」

表4は、「に関する」と「に関しての」の後続名詞 N のそれぞれ特徴的な語を示すものである。

表4 「に関する N」と「に関しての N」

No	に関する Nのみ	個数	No	に関する Nのみ	個数	に関しての Nのみ	個数
1	法律	31	23	方針	2	お願い	6
2	調査	14	24	評価	2	注意	4
3	事項	10	25	書類	2	考え方	4
4	世論調査	6	26	会議	2	問題	3
5	規定	6	27	記録	2	不安	3
6	協定	6	28	業務	2	講話	3
7	法律案	5	29	考察	2	更正処分	3
8	特別措置法	5	30	学校	2	人権	2
9	苦情	5	31	特別委員会	2	取り扱い	2
10	調査研究	5	32	計画	2	詳細	2
11	検討会	4	33	判決	2	コメント	2
12	件	4	34	ニュース	2	記事	2
13	条例	4	35	文献	2	仕組み	2
14	登記	3	36	措置	2		
15	条約	3	37	報告書	2		
16	基礎的研究	3	38	シンポジウム	2		
17	経費	3	39	アドバイス	2		
18	研究開発	3	40	議論	2		
19	本	3	41	研究会	2		
20	限り	3	42	実態	2		
21	施策	3	43	指針	2		
22	研究等	2					

「に関する」は「法律、措置、規定、基準、協定、条例、条約、登記」などの決まりや規定を表すもの、「研究、調査、研究開発、検討会」などの知的行為表す語が後続される傾向にある。「に関しての」は「お願い、注意、考え方、不安、コメント、講話」など、特定の相手、少人数に対する働きかけのような私的な要素が強い語が後続されやすい。

4.2.2 「に対する N」と「に対しての N」

表5は、「に対する」と「に対しての」の後続名詞 N のそれぞれ特徴的な語を示すものである。

表5 「に対するN」と「に対してのN」

No	に対するNのみ	個数	に対してのNのみ	個数
1	要請	5	感謝	8
2	支援	5	答え	7
3	信頼	5	質問	6
4	比率	4	反論	4
5	ニーズ	4	活動	3
6	教育	4	返答	3
7	要求	4	信頼感	3
8	暴力	3	コメント	3
9	姿勢	3	礼儀	3
10	非難	3	目	2
11	低利融資	2	ご褒美	2
12	安全性	2	対応の遅れ	2
13	復讐	2	スタインコプフ	2
14	意欲	2	プレゼント	2
15	措置	2	自分の意見	2
16	割合	2	ポジショニング	2
17	努力	2	正しい理解	2
18	反感	2	怒りや悲しみ	2
19	監督	2	医療施設の充実	2
20	不信	2	井上和香	2
21	理解促進	2	紹介	2
22	審査請求	2	数値	2
23	脅迫	2	該当する度数	2
24	責務	2	感想	2
25	答弁	2	対策の遅れ	2
26	敬意	2	お考え	2
27	権利	2	懸念	2
28	悲しみ	2	特効薬	2
29	考え	2	御礼	2
30	保護	2	国会議員の人数	2
31	告発	2	使用	2
32	罪	2		
33	質疑	2		

「に対する」は「要請、支援、請求、要求、保護、暴力、復讐、脅迫、非難、反感、告発、質疑」などのような相手（擬人的機関）に影響を与える言語活動、行為、「悲しみ、信頼、敬意、考え」のような心的態度を表す名詞が後続されやすい。後続名詞は公的機関に対する要請・要求や不特定多数に対する支援など、どちらかという公的な活動を表すことに関わる名詞が多いようである。また、「比率」という名詞も後続され、割合を表す。「に対しての」は「感謝、答え、質問、返答、コメント、ご褒美、プレゼント」のように、どちらかという私的な言語活動、心的活動、物品のやり取りを表す名詞が後続されやすい。

4.2.3 「に関するN」と「についてのN」

表6は、「に関する」と「についての」の後続名詞 N のそれぞれ特徴的な語を示すものである。

表6 「に関する N」と「についての N」

No	に関する Nのみ	個数	についての Nのみ	個数
1	事項	10	認識	9
2	世論調査	6	考え方	9
3	協定	6	問題	7
4	法律案	5	記事	4
5	特別措置法	5	裁判	4
6	苦情	5	御見解	3
7	調査研究	5	理解	3
8	検討会	4	御質問	3
9	件	4	考え	3
10	情報提供	4	指導	3
11	条例	4	不満	2
12	基準	3	申告	2
13	条約	3	論考	2
14	基礎的研究	3	アイデア	2
15	経費	3	裁判要求	2
16	研究開発	3	関心	2
17	限り	3	取扱い	2
18	施策	3	対策	2
19	研究等	2	記憶	2
20	書類	2	権利	2
21	会議	2	常識	2
22	場合	2	見通し	2
23	業務	2	定義	2
24	情報交換	2	御意見	2
25	法律	2	判断	2
26	学校	2	御答弁	2
27	活動	2	文章	2
28	特別委員会	2	コメント	2
29	判決	2	質疑	2
30	ニュース	2		
31	文献	2		
32	報告書	2		
33	シンポジウム	2		
34	用語	2		
35	アドバイス	2		
36	研究会	2		
37	実態	2		
38	調査	2		
39	指針	2		

「に関する」は「協定、法律、措置、規定、基準、条約」などの決まりや協定といった法的、公的なもの、「苦情、会議、研究、調査、技術、文献、報告書、シンポジウム、検討会」のような感情を表す名詞、言語活動、知的研究活動を表す名詞が後続されやすい。それに対し、「についての」は「認識、考え方、見解、理解、不満、関心、ご意見」

のような心的態度を表す名詞、「問題、記事、裁判、御質問、議論、質疑、コメント、答弁」のような言語活動を表す名詞と共起しやすい。

「に関する」は研究、相談、情報などを後続させ、対象との関連性を明示するのに対し、論文、説明、裁判、記事は「についての」に後続され、対象を限定して、その対象と密着してされに集約的にそれを深く掘り下げるという「について」(森田・松木(1989: 9))の指摘が当てはまる。

4.2.4 「に対する N」と「についての N」

表7は、「に対する」と「についての」の後続名詞 N のそれぞれ特徴的な語を示すものである。

表7 「に対する N」と「についての N」

No	に対する N のみ	個数	についての N のみ	個数
1	暴力	3	質問	11
2	態度	3	研究	10
3	非難	3	議論	8
4	需要	3	検討	8
5	低利融資	2	話	8
6	批判	2	報告	5
7	愛	2	データ	5
8	責任	2	記事	4
9	安全性	2	裁判	4
10	憧れ	2	記述	4
11	復讐	2	答申	3
12	意欲	2	方針	3
13	侵略	2	御見解	3
14	影響	2	御質問	3
15	割合	2	規定	3
16	努力	2	論文	3
17	感情	2	申告	2
18	反感	2	論考	2
19	監督	2	アイデア	2
20	不信	2	統計	2
21	理解促進	2	裁判要求	2
22	審査請求	2	取扱い	2
23	脅迫	2	対策	2
24	責務	2	記憶	2
25	興味	2	記録	2
26	驚き	2	本	2
27	抵抗	2	経験	2
28	苦情	2	作品	2
29	敬意	2	決定	2
30	悲しみ	2	常識	2
31	合意	2	見解	2
32	保護	2	相談	2

33	告発	2	見通し	2
34	罪	2	定義	2
35	助言	2	御意見	2
36			動向	2
37			こと	2
38			判断	2
39			御答弁	2
40			文章	2
41			交渉	2
42			立場	2
43			コメント	2

「に対する」は「教育、支援、保護、指導、要請、請求、措置」のような相手・対象に対する行為、「態度、非難、批判、憧れ、反感、不信」「暴力、復讐、抵抗、侵略、告発」のような相手に対する心的態度、行為を示す名詞が後続されやすい。金（1992：48）で指摘されているように、これらの名詞は影響を受ける相手があることが前提となる。「についての」は「裁判、記事、見解、記録、説明、意見、調査、研究、記述、報告、論考」など、知的行為を表す語、知的行為の所産を表す語が後続されやすい。金（1992）が指摘されるように、タイトル（内容の提示）を要求される性質の強い語が多い。

表7には示されていないが、「相談、権利、規制、評価」などの名詞は両方と共起するが、「に対する」は相手、「についての」は内容に重点を置く傾向が見られる。

5. まとめ

本稿は「についての」「に関しての」「に関する」「に対しての」「に対する」の使用ジャンル、文体的特徴、および後接名詞の使用状況の違いを考察した。

まず、使用されるジャンルの違いについては、出現数の多さを降順で見ると、「に対する」は白書、法律、国会会議録、書籍、新聞の順で、「に関する」は法律、白書、広報誌、国会会議録の順となっており、「についての」は法律、白書、国会会議録の順となっていることが分かった。上記の傾向は、サブコーパスの特徴と関連していると考えられる。

書籍（図書館・書籍、出版・書籍、ベストセラー）について、日本十進分類法（NDC）による分類ごとの出現傾向を、出現数の多さを降順で見ると、「に対する」の出現数は社会科学、自然科学、産業、哲学、総記の順となっており、「に関する」の出現数は社会科学、産業、技術工学、総記、自然科学の順となっている。「についての」の出現数は社会科学、自然科学、言語、哲学、総記の順となっている。「に対する」「に関する」「についての」はいずれも社会科学に最もよく使われ、自然科学、産業、総記、哲学にもよく使われているが、三者とも文学分野にやや現れにくいことが分かる。「に関する」は技術工学分野に、「についての」は言語分野によく使われるのが特徴的である。

次に、「についての」、「に関しての」、「に関する」、「に対しての」、「に対する」の

後続名詞には以下のような特徴が見られる。

「に関する」は決まりや規定、協定といった法的、公的なものを表すもの、感情を表す名詞、言語活動、知的研究活動を表す名詞が後続されやすい。

「に関しての」は特定の相手、少人数に対する働きかけのような私的な要素が強い語が後続されやすい。

「に対する」は相手（擬人的機関）に影響を与える言語活動、行為、相手に対する心的態度を表す名詞が後続されやすい。後続名詞は公的機関に対する要請・要求や不特定多数に対する支援など、どちらかというとか公的な活動を表すこと関わる名詞が多いようである。また、「比率」という名詞も後続され、割合を表す。

「に対しての」は私的な言語活動、心的活動、物品のやり取りを表す名詞が後続されやすい。

「についての」は心的態度を表す名詞、言語活動を表す名詞、知的行為を表す名詞、知的行為の所産を表す名詞と共にしやすい。

『分類語彙表』などの分類基準を元に、五者の後続名詞の意味的分類を行った上での分析、個々の用例の仔細な分析、および構文的特徴を分析する必要がある。今後の課題とする。

注

- 1) 複合辞、複合格助詞、後置詞と呼ばれることもあるが、本稿では「複合助詞」と呼ぶ。
- 2) 本稿では、「に関した」「に対した」「につきましての」を考察の対象外とする。
- 3) 補足として、アンケートの結果をもとに、抗体や療法のような「動作・変化の意味を含まない純粋な名詞を修飾する場合、[+]型よりもV-辞書形型による修飾のほうがより自然であることもある」と付け加えている。【山田(2002:39)・悪性脳腫瘍(に対する/? に対しての)中性子捕捉療法
- 4) 山田(2002)、横田(2007)では、「に対しての」と「に対する」について、検索エンジン Google を用いて調べ、ヒットしたサイトの件数の割合はそれぞれ1対約11、1対約14で、「に対する」は「に対しての」より頻度が高いことがわかる。
- 5) 3長単位以内の名詞という基準は恣意的に決めたもので、N2は3長単位までなら概ねこの範囲に収まると予測したためである。
- 6) 紙幅の都合上、「に対する」の検索条件式を示し、他の4形式の検索条件式を省略する。
キー：語彙素="に対する"
AND 前方共起：品詞 LIKE "名詞%" ON 1 WORDS FROM キー
AND 後方共起：品詞 LIKE "名詞%" WITHIN 3 WORDS FROM キー
WITH OPTIONS tglKugiri="|" AND tglBunKugiri="#" AND limitToSelfSentence="1" AND tglFixVariable="2" AND tglWords="30" AND unit="2" AND encoding="UTF-16LE" AND endOfLine="CRLF"
- 7) 例：病院に非がない場合でも、普段の印象が悪いと、何かが起こったときには、病院に対しての不満や疑問が、何倍にも膨れあがってしまうことを肝に銘じておきましょう。
- 8) 小宮(2005)は「文体とは文章の表現上の性格を他と対比的に捉えた特殊性のことをいう」と述べている。本稿は小宮(2005)に習い、文体を文章全体から捉えるものとする。

参考文献

- 庵功雄、高梨志乃、中西久美子、山田敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』、スリーエーネットワーク

- 市川保子 (1997) 『日本語誤用例文小辞典』 凡人社
- 柏崎雅世 (2005) 『「について」と『に関して』 — 『「に対して』を視野に入れながら—』 『留学生日本語教育センター論集』31 pp. 1-16
- 柏崎雅世 (2007) 「テーマを示す複合助詞『「について』と格助詞『を』』 『留学生日本語教育センター論集』33 pp. 1-14
- 金仙姫 (1992) 「現代日本語における「についての」「に関する」「に対する」の用法上の差異の考察」 『東北大学文学部日本語学科論集』2 pp. 41-53
- グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』 くろしお出版
- 小宮千鶴子 (2005) 「文体」、日本語教育学会 (編) 『新版日本語教育事典』 大修館書店 pp.357-358
- 佐藤尚子 (1989) 「現代日本語の後置詞の機能— 『「について』と『「に対して』を例として—』 『国語研究』7 横浜国立大学国語学文学会
- 杉本武 (2014) 「複合助詞の用法と機能」 『講座日本語コーパス6 コーパスと日本語学』 朝倉書店 pp.48-68
- 砂川有里子 (1987) 「複合助詞について」 『日本語教育』62 pp. 42-55 日本語教育学会
- 前坊香菜子 (2014) 「「必ず」「絶対」「きっと」の文体的特徴: 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の調査から」 『一橋大学国際教育センター紀要』5 pp. 93-104 一橋大学国際教育センター
- 塚本秀樹 (1991) 「日本語における複合格助詞について」 『日本語学』10-3 pp.78-95 明治書院
- 森田良行・松木正恵 (1989) 『日本語表現文型 用例中心・複合辞の意味と用法』 アルク
- 山田敏弘 (2002) 「格助詞および複合格助詞の連体用法について」 『岐阜大学国語国文学』29 pp. 27-43
- 横田淳子 (2006) 「『「に対して』の意味と用法」 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』32 pp.19-31 東京外国語大学
- 横田淳子 (2007) 「『「に対して』の名詞修飾用法」 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』33 pp.15-26 東京外国語大学

利用したコーパスと検索ツール

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) (2011) 国立国語研究所
長単位検索 Web アプリケーション「中納言」URL: <https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>